

助剤の活用が有効であることから医師、薬剤師と連携するなど、保健指導の内容や対象者の心身などを考慮し、他職種との連携を図ることが望ましい。

なお、医師に関しては、日本医師会認定健康スポーツ医等を活用することが望ましい。

さらに、保健指導を実施する者は、保健指導のための一定の研修を修了していることが望ましい。

4) 保健指導のプロセスと必要な保健指導技術

①効果的な保健指導の準備

- 保健指導の環境整備
 - ・場の設定をする。
 - ・都合の良い時間帯の設定をする。
 - ・実現可能な1人あたりの時間の設定をする。
- 対象者の資料の確認
 - ・健診データ、質問票、前回までの保健指導記録を読む。
- 対象者に活用できる資源のリストの準備
 - ・教材、指導媒体、活用すべき社会資源のリストを準備する。
- 保健指導担当者間の事前カンファレンス
 - ・必要に応じて指導内容を担当者間で確認をして指導にのぞむ。

②対象との信頼関係の構築

- 自己紹介
 - ・さわやかな挨拶をする
 - ・保健指導実施者としての立場や役割、目的、タイムスケジュール等を説明する。
- 話しやすい雰囲気づくり
 - ・非言語的アプローチを含めて、ねぎらいと感謝で迎えるなどの雰囲気づくりをする
 - ・対象者のペースを重視する。
 - ・ユーモアや状況に応じて例示などを用いる。

③アセスメント（情報収集・判断）

- 対象者の準備段階や理解力、意欲の確認
 - ・健診結果とその推移を確認する。
 - ・健診結果のもつ意味を本人と一緒に確認する。
 - ・これまでの健診受診歴、病歴の確認、質問票など記載事項の確認、生活習慣について気をつけていることなどを確認する。
 - ・家族歴や家族の状況などを確認し、疾病に対する関心を探りながら話す。